

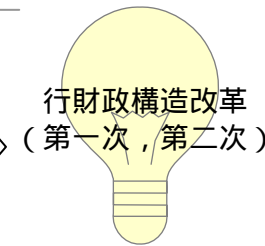
盛岡市自治体経営の指針及び実施計画 ~元気なまち盛岡を目指して~ 概要

1-これまでの行政運営

高度経済成長，バブル経済
右肩上がりの経済成長，人口，税収の増加
公共サービスの担い手が行政へ



長引く景気低迷
税収，地方交付税の減少（国の改革の影響）
財政再建団体転落の危機へ！



公共事業費や職員数の削減
行政運営の新しい仕組み（行政評価など）
財政再建団体転落の危機を回避！

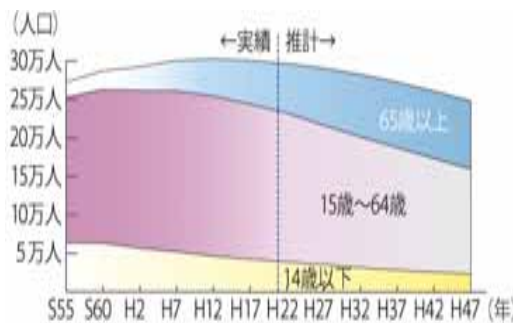
と
る
が
…

2-市を取り巻く環境の変化

(1) 少子高齢，人口減少時代の到来
人口が減っていくと税収も落ち込ん
じゃうなあ。社会保障の費用は高齢化
が進むと増えるだろうし…。
お財布が心配だなあ…。

(2) 地域コミュニティの
持続性への懸念
若い人も来ないし，町内会活動へ参加
する人も減っているよね。
清掃活動とか廃品回収とか，できなく
なっちゃうかも…。

【市の人口推計】（まちづくり研究所基礎報告）



(3) 財政基盤の脆弱さ・硬直性
貯金も増えたと借金も減ってきたんだ
けど，安心して暮らすにはまだ十分じゃ
ないんだよね。
公共施設を直すのに，これからもっと
お金がかかりそうだし…。

(4) 地方分権の進展
「自分たちのまちは自分たちでつく
る」という気持ちとそのための仕組み
が必要になってくるんだ！

(5) 戦後最悪といわれる不況
景気もなかなかよくなるなあ。
先の見通しも立たないよね…。

こうした環境の変化に適切に対応できないと，まちづくりの停滞や公共サービスの質の低下が進みます。人口の減少や企業が撤退・転出してしまいう可能性もあります。

このような状況の中で，多様化，高度化する市民ニーズに対応し，市民生活の質を維持・向上させていくためには，税収等の増加を背景に公共サービスの量を拡大したり，定められた法令・基準に基づいてまちづくりを行うこれまでの「行政運営」の手法だけでは，十分な成果を得ることが難しくなっています。

3-自治体経営への転換



(1) 市ではこれまで，「あすを築く盛岡市民運動実践協議会」や地区福祉推進会の活動，町内会・自治会などによる地域の清掃活動や通学児童の見守りなど，市民や町内会・自治会などが地域の課題解決に向けて主要な役割を担ってきました。こうした活動をこれからも続けるようにすること，また地域課題の解決の新しい取組みも実施できる環境をつくっていくことが重要と考えています。

(2) また，盛岡市は岩手県の中心都市として都市機能の集積があり，様々なNPOや事業者が立地しています。NPOの活動や，産学官連携の取組みなどが進んでいることも，まちづくりの強みとなっています。



市も積極的に実施しているワークショップ

事業者と一緒に盛岡の魅力PR！
(盛岡デーin 沖縄)



(3) 一方，市は，これまでの行財政構造改革の取組みの中で，市民や事業者がまちづくりに参加することを後押しする仕組みをつくってきました。また，公共サービスを支えるための強固な行財政基盤づくりを進めてきました。

これからはこうした役割に加え，市民や町内会・自治会，企業，NPOが行っている地域課題の解決につながる活動をコーディネートし，より有効な活動につなげていく役割も担っていく必要があります。

(4) このように，市民，町内会・自治会，NPO，企業と行政が，お互いの特性と能力を尊重し，協働しながら，自助，共助，公助のバランスの下で，まちづくりに主体的に取り組むことにより，まち全体の経営資源を整え，まちづくりの課題解決を進めていく「自治体経営」の手法への転換が重要と考えています。

【ご意見・ご提言をお寄せ下さい！】

〒020-8530 盛岡市市長公室行政経営課

電話：019-626-7553

ファクス：019-622-6211

電子メール：keiei@city.morioka.iwate.jp

4-経営の指針

- (1) 多様な主体が参画するまちづくり ... 市民の皆さんへの情報公開や意見交換をさらに進め、市政に参画できる機会を広げます。
市民、町内会・自治会、NPO、企業など、様々なまちの構成員による協働のまちづくりを進めます。
- (2) 経営資源配分の最適化 ... まちづくりに必要な資源（税収等の収入や人材、モノ）を、まちづくりの課題解決に向けてより効果的に配分する仕組みをつくります。
- (3) 成果重視の経営 ... 予算規模や事業の数など「何をしたか」ではなく、目標の達成度合いや市民ニーズをどれだけ満たしたかなど「何ができたか」を重視します。
- (4) 強固な行財政基盤の構築 ... 「最少の経費で最大の効果」を上げることを目指し、少子高齢、人口減少時代のまちづくりを支え続けることができるしっかりした行財政基盤をつくります。

5-取組内容

協働のまちづくりの推進

市民や町内会・自治会、NPO、企業など、さまざまな主体がお互いに連携し、協働するまちづくりを目指します。

地域協働の仕組みをつくり、地域での取組みの実施に向けた働きかけを進めます。

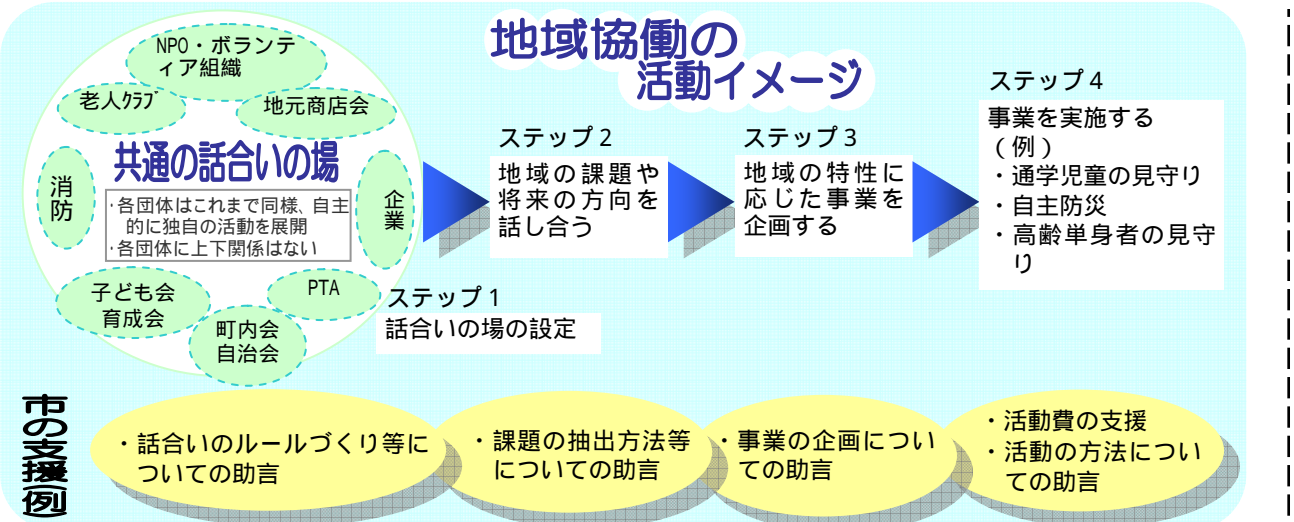
市も職員を派遣するなど技術面・資金面などの支援を行います。

指定管理者制度、PFIの活用や、民間委託を進めます。

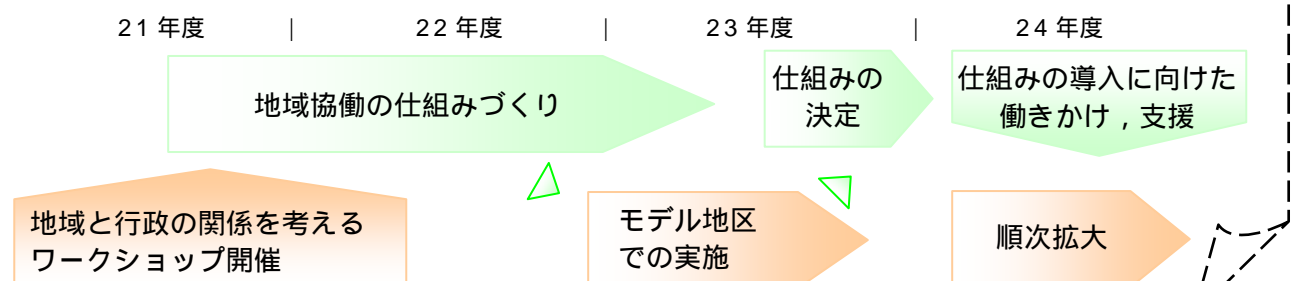


【グラウンドワークによる公園づくり】

活動のイメージ



地域協働の仕組みづくりと働きかけのスケジュール



行政評価を活用した経営システムの確立

まちづくりに必要な資源（税収等の収入や人材、モノ）の配分をより効果的に行うため、「行政評価システム」の改良を進めます。

市民・有識者による施策の外部評価の実施
市の仕事（事務事業）の見直しや手法の改善
効果的な予算執行に向けた仕組みの検討 など

公正で透明性の高い経営の推進

積極的に行政情報を公開・提供します。また、市民からの意見の把握と反映をさらに充実させます。監査体制の充実や職員が公正に職務を行うよう徹底します。

市民の意見を把握する新しい方法を検討
民間の広報手段をより積極的に活用
外部の方において監査を実施 など

6つの分野で取組みを進めていきます！



健全な財政運営の推進

予算や決算だけでなく、市の資産や借金、行政サービスに掛かる費用を明らかにします。借金を抑え、税の収納率を向上させるなど収入、支出両面の健全化に引き続き取り組みます。

財政指標をわかりやすく公表
滞納処分の強化や納税相談の充実などによる市税の収納率の向上 など

組織のマネジメントの推進

まちづくりの環境変化に対応できるよう、職員の適正配置や人材育成、組織力の向上を中心とした組織マネジメントを確立します。

複数の部署による横断的な対応の充実
職員の人材育成と組織目標達成に向けた取組み
まちの規模や行政目的に見合った適正な職員数 など

公共施設アセットマネジメントの推進

公共施設の老朽化に対応するため、運営費用と利用者の便利さのバランスを考えながら、維持管理の効率化や効果的な更新の方法を検討します。

岩手県立大学と共同設置しているまちづくり研究所で、公共施設を資産として有効に活用するための仕組みづくりを研究
公共施設の配置のあり方を検討

市総合計画に掲げるまちづくりの基本目標「人々が集まり・人にやさしい・世界に通ずる元気なまち盛岡」へ！